

男と女の不完全マニキュアル

地球の男と女

薄井ゆうじ



株式会社 ウィアックス

地球の男と女

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21
浴室	模倣	年上	放牧	電話	探偵	葡萄	地図	舞踏	手札

手札

彼女が、カードをやりたいと言い出した。僕が仕事で疲れて帰った日に限って、カードゲームをやろうと誘う。

「明日にしないか」

「いまやりたいの。カードもできないほど疲れ切ってしまう仕事なんて、辞めてしまえばいいのよ」
彼女はテーブルについて、すたすたとカードを切りはじめる。

「さあ、向かい側にすわって」

こんなときは、何を言っても無駄だ。僕は観念して、鉛のように疲労した体を椅子の上に落としこむ。
ルールは簡単だ。伏せたカードの山から一枚ずつ取り、同時にひらいて、大きな数を出したほうが勝ち。ただそれだけだ。戦略も、駆け引きもない。運だけに頼る単純なゲームで、だからこそ面白くはないのだが、彼女は以前からこのカードゲームに熱中していて、僕を誘い込む。

「さあ」彼女の声は陽気だ。「取って」

僕はうんざりした気分でカードを一枚取り、同時にひらく。僕はスペードの5。彼女はハートの8。ダイヤでもクラブでも、種類には関係ない。多い数字が勝ち。多少複雑かと思えるルールは、Aが最強で、2がもっとも弱いということぐらいか。

「私の勝ち！」

彼女の勝ち誇った声を聞きながら、僕は果てしない泥沼に吸いこまれていくような感覚に陥る。

ゲームは延々とつづく。山がなくなれば、またシャッフルして中央に置く。どちらが勝ったかは、一枚のカードをめくるごとに判定し、その勝敗は累積しない。勝った、あるいは負けた、と一回ごとに叫ぶだけだ。勝ってどうなるわけでもなく、負けたからどうということもない。いったいこれをゲームと呼べるのかどうかも疑わしい。

夜が更けた。ゲームをはじめてからすでに三時間になる。彼女は、嬉々としてカードをめくりつづける。

「私の勝ち！」

歓声を上げる。僕は眠気と疲労を抱えたまま、機械的にカードをめくりつづける。このゲームは、彼女のほうから終わりにしようと言い出さない限り、無限につづく。

「ねえ」深夜、僕はたまりかねて言った。「もう一回だけで、終わりにしようよ」

「なぜ」彼女は不思議そうな顔をする。「やっと面白くなりはじめたところじゃないの」

「こんなこと、いつまでつづけても同じだと思うんだけど」

「なんてことを言うの」

彼女は持っていたカードを取り落としそうになるほど驚いた表情をした。僕が、こんなことを言ったのは、はじめてなのだ。

「ひどい。私が嫌いになったの？」

「違うよ。ただ僕はそろそろカードをやめて横になりたいだけなんだ。明日の仕事もあるし。それに僕は、このゲームがどうも好きになれないんだ。もっと複雑なルールとかだったら別かもしれないんだけど」

「複雑にしたいわけね」彼女は目を上げて僕を見る。その目が、きらりと光る。「私たちの関係を、もっと複雑にしたいというわけね」

「カードのルールのお話をしているだけだよ」

「わかった」

彼女はキッチンへ立ってビールを一缶持ってくる、プルタブを開けて、そのまま一気に飲みはじめた。僕のぶんを持ってくる様子はない。僕は黙って彼女が何か言うのを待った。

ビールを飲み干すと彼女は空缶を、とんと置いて僕を見据えた。

「じゃあ、言ってみてよ」

「何を」

「いったいあなたは、どんなルールを望んでいるの」

「どんなくて、急に言われても。僕はただ、このままだと……」

「ほらね。どうしたいかもわからないのに、今のままじゃ駄目だと思ってるわけ、あなたは」

「そういうんじゃない、ただ」

「わかってる」彼女は静かに言った。「つまり、あなたはゲームをやめたい。そうなんです」

「僕はカードのお話をしているだけで、なにもきみとの……」

「わかってる。そういう人なの、あなたは。こうしましょう。いまカードを一枚ずつ取る。それをめくって、大きい数の人がやめたいと言えば、やめる。つづけたいと言えば、このまま朝までゲームをつづける。どう？」

「かまわないけど……」

薄井ゆうじ（うすいゆうじ）

1949年茨城県生まれ。イラストレーター、デザイン会社経営を経て、『残像少年』で第51回小説現代新人賞を受賞。『樹の上の草魚』で第15回吉川英治文学新人賞を受賞。主な著書は、『天使猫のいる部屋』『くじらの降る森』『12の星の物語』など。



チョット見文庫

男と女の不完全マニュアル
地球の男と女

発売日 2012年5月11日

著者 薄井ゆうじ

編集 栗田孝子

装丁 2010

企画 林秀和 西門直 大西健之 梶川悦子 志田淳

発行者 小川巧次

発行所 株式会社 **ヴィアックス**

〒164-8677

東京都中野区弥生町2-8-15

TEL 03-3299-6009

<http://www.viax.co.jp/>

無断転載・複製を禁じます。

© Yuji Usui 2012

この作品は2000年11月から2009年4月、月刊『アップルタウン』誌に連載したものに加筆修正したものです。